

*セミナー中止について

口蹄疫が猖獗を極めています。当社としてもはじめての独自セミナーの開催に向け着々と準備を進め、参加人数も100名をはるかに超える申し込みを得ていたところでしたが、宮崎県とはいえ、同業者たちが懸命の努力をしているなかでの開催は、妥当ではないと判断いたしました。過日FAX等で緊急のお知らせをしたところです。皆様には、大変なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げるしたいです。どうぞご了承いただけるよう重ねてお願いを申し上げます。

*危惧される当町の口蹄疫対策

1) 本町での発生について

宮崎県の教訓を生かすために、本町で口蹄疫が発生したときにどうすればよいのだろうか？ 酪農と水産しかない別海・中標津・根室での口蹄疫防疫マニュアルについて考えてみたいと思います。

まず、制限区域の設定であるが宮崎と同じ10km（移動制限）と20km（搬出制限）のままでよいのだろうか？ 宮崎ではこれがもうくも崩れ去ろうとしている現状を考えると、その搬出ならびに移動制限区域はさらに広めるのが望ましいのではないでしょうか。宮崎の10kmと別海の10kmには大きな差があるように思います。消毒ポイントも宮崎では、一般車両の消毒は行われていなかつたしょうですし、夜間の消毒も運転手の自主性に任せられほぼ野放し状態だったということです。当管内における演習資料にも朝7時から午後6時までとしかなっていない点が気になります。消毒ポイントは10km地点だけでなく、5km, 10kmくらいの2重のポイントを設けてはどうだろうか？ 同時にすべての道路（幹線道路だけでなく、わずかな農道もすべて）を封鎖し24時間すべての車両の消毒を強制的に行い、拒否するものの通行はさせないという断固とした指針が必要ではないでしょうか。殺処分や殺処分家畜の個体評価作業も、より迅速に行えるような方法を特例として（町条例として）前もって決めておく必要があるかもしれません。口蹄疫はある意味、時間との戦いですからで、この点でも宮崎の経験を生かす必要性があると思います。

出動各班の人員構成は、すでにある程度決められていますが実際的にどの事業所から何名出るかなどまで決めておく必要があるように思います？ また、各作業班には関係機関だけが担当となっていますが、24時間・長期戦に対応するためには、商工会、水産関係者あるいは、ボランティア町民など全町

的協力も求めるべきで、こうした対応を今から町民に啓蒙・喚起する必要があると思います。おらが町のおらが産業である酪農を皆で守らなければならないということを今から、町民には十分理解しもらう必要があるでしょう。

2) 他の支庁（十勝など）で発生したときの対応について

最も気になるのはわが町で発生したことだけが論議の中心になっていることです。しかし、より現実的に重要なのは、十勝や釧路で口蹄疫が発生したときの対応だと思います。幸いに根室は地理的に守りやすい場所に位置していて、自らの東と南を守る必要はありません。敵は必ず西か北からしかやって来ません。特に西（帯広方面）がもっとも重要な防衛ラインになるのではないでしょか。十勝に口蹄疫が発生したとき、酪農の里である別海・中標津・根室はその時点でいっせいに「非常事態宣言」を発し、同時に境界における防衛ラインを引くくらいのことが必要に思います。

十勝で発生したときの第1防衛ラインは釧路支庁で、直別・音別・阿寒・弟子屈がその第一防衛ラインになり、次に根室支庁ラインが第二次防衛ラインとなるでしょう。そういう観点から、釧路とも十分に協議しておくことが重要かと思います。十勝・釧路で発生したときのために、幹線道路だけでなく主な枝道の根室支庁境界ラインには、すぐに消毒体制がとれるように、今から消毒ポイントを設置し、各ポイントに必要な消毒器具と消毒薬の備蓄をしておくべきでしょう。消毒薬の備蓄は、想定される交通量などから必要量を割り出し最低1ヶ月間分くらいの備蓄が必要に思います。また、地元の農協・NOSAI・開業獣医師・そして酪農家自身にもそれぞれに備蓄を要請しておくべきではないでしょうか？宮崎では今回の消毒で威力を発揮するはずであったビルコンの供給が極めて不十分であったし、宮崎での不足を知りながら各地でビルコンの取り合いが起きてしまったようです。大難把に考えただけでも今すぐにでも検討しなおさなければならないことがたくさんあるように思います。

「酪農しかない町の防衛」を今一度早急に見直す必要があるように思います。根室酪農はこうして守るという「断固とした指針」を持つ必要があると思います。

黒 崎